

基本政策Ⅱ 学ぶ意欲を育て、「生きる力」を伸ばす

政策 目標

子どもたちの学ぶ意欲を高め、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな心身」をバランスよく育み、将来の予測が難しい社会を生き抜くために必要な「生きる力」を確実に身につけることを目指します。

主な課題

- ①子どもたちが自ら学び、課題を見つけ、主体的に判断し、課題解決のために他者と協力する資質や能力を伸ばしていくため、学校、地域、家庭が連携した取組を進め、**「確かな学力」を育成**する必要があります。また、児童生徒の**「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善**を進めていくことが求められています。
- ②道徳教育の一環として、「心のバリアフリー」に関する理解を深めるための指導等を継続していくとともに、「かわさきパラムーブメント」がめざす「誰もが自分らしく暮らし、自己実現をめざせる地域づくり」の実現に向け、多様性を尊重する社会の担い手を育む教育を、引き続き、計画的・系統的に行っていく必要があります。
- ③現代的な健康課題等に対応し、子どもの心身の健康の保持・増進を図るとともに、児童生徒の健全な身体を育むため、小中9年間を通じた体系的・計画的な食育を引き続き推進していく必要があります。
- ④「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現のため、様々な形で蓄積されていく**スタディ・ログを効果的に活用**していくことが求められています。また、GIGAスクール構想で整備されたICT環境を活かして、自宅等でICT端末による学習を継続することで、子どもたちの学習を保障することが求められています。
- ⑤各学校の特色を活かした多様な学習ニーズに対応する教育活動を実施し、魅力ある市立高等学校づくりに向けた取組を推進していく必要があります。

主な取組成果

- ① **市学習状況調査**について、令和5年度から**対象者を市立小・中学校及び市立聾学校の6学年（小学4年生～中学3年生）とし、63,083人に実施**しました。各学校に対しては、実施方法や分析方法等の変更に伴う説明や校内研修の事例紹介、各教科の調査結果に基づく授業改善例等を周知しました。個人票は、7月に配布して児童生徒及び保護者に学習状況を伝え、GIGA端末との連携も含め**学習改善に活用**しました。
- ② 人権尊重教育研究推進校3校、実践推進校2校による各校の実態に応じた人権尊重教育推進の在り方や学校づくりの継続的な研究を行い、人権尊重の視点に立った指導や支援の実践と成果を取りまとめ、全市立学校に共有しました。また、各学校の多文化共生教育の充実に向けた情報交換の実施については、「学校でできる多文化ふれあい交流会」をオンラインと対面のハイブリット形式で開催し、各学校の取組状況についての情報交換を行いました。
- ③ 川崎らしい特色ある「健康給食」の推進については、「かわさきそだち」の野菜を使用した献立を提供するなど、「健康給食」をコンセプトとした中学校給食を推進しました。また、小中9年間にわたる体系的・計画的な食育の推進について、栄養教諭を中核としたネットワークを活性化し、中学校区を拠点として小・中学校をグループ化し、小・中学校、給食センター間の連携を図りました。さらに、大豆ミートを使用した給食献立をきっかけとして、学校給食におけるSDGsの取組について児童生徒が主体的に考える機会を創出し、学びを推進しました。
- ④ **「かわさきGIGAスクール構想ステップ3」の実現に向けた研究について、文部科学省のリーディングDX事業にも参加し、GIGA端末を活用した先進的な授業実践を行い、**市内外にその成果を発表しました。また、不登校等児童生徒向けにオンライン学習システムを817アカウント貸与し、家庭での学習支援を行いました。スタディ・ログを含めた教育データ活用については、学校でGIGAスクール構想を推進する教師（GSL）に年3回研修を行いました。情報モラル教育の充実と家庭との連携推進については、教職員の情報モラル教育の質の向上を図るとともに、保護者向けインターネットガイドによる家庭への啓発を行いました。
- ⑤ 「川崎市立高等学校改革推進計画第2次計画」に基づき、日本語指導の必要な生徒に対する支援体制の充実として、令和5年度から川崎高等学校定時制課程の在県外国人等特別募集を開始するとともに、高津高等学校定時制課程2年生にキャリアに関する科目を新たに設置し、卒業後の進路を見据えた教育体制を構築しました。また、地域連携を主体とした授業を全校で取り組み、橘高等学校の「保育園交流」等を新たに実施しました。

教育改革推進会議における意見内容

- ①市学習状況調査の内容について、保護者にはわかりやすく結果を伝えることができていると感じるが、「個別最適な学び」と言われている中、現場の学習の進め方と若干乖離しているように思われる。
- ①**従来求めている学力が本当に20年後、30年後に必要な学力なのかという視点で**、義務教育段階で、答えが既にわかっているものを考えたり見つけるのではなく、**答えの出ない問題にいかに取り組んでいくのかが重要**と考える。
- ③小・中9年間にわたる体系的・計画的な食育の推進に、変化の激しい現代において精神的な問題を抱える児童生徒が増加しないように、最新研究を活かして食による児童生徒の精神的な健康も併せて推進してほしい。
- ④ICT端末を使うことを目的とせず、そこで得られた情報をもとに自分なりの考えや答えを導き出せるような授業にすることで、今後、AIが活用される時代に活かされる力が身に付くと考える。
- ④1人1台端末を活用し、児童生徒一人ひとりの定量的、定性的なデータが記録され、教職員の端末と当然のようにマッチングさせて学習指導していくという時代がいずれやってくるのではないかと考える。
- ⑤高等学校各専門学科の教員が、生徒たちに一層興味を持って勉強してもらえるように、インターンシップ等の経験を活かし、いかに生徒一人ひとりの資質・能力を伸ばしていくかが重要だと考える。

今後の取組の方向性

- ①令和5年度から、**市学習状況調査**の対象学年を拡充し、IRT※を取り入れた調査方法に変更したことで、経年比較、同一母集団の比較が可能となり、よりきめ細かく**一人ひとりの学習状況を把握し、その結果をGIGA端末と連携することで、各学校の授業改善、児童生徒の学習改善につなげていきます**。また、児童生徒がより「分かる」を実感する授業を目指し、個別最適な学びを実現し、目標を達成できるように計画的に取り組んでいきます。
※IRT（項目反応理論）：従来のテスト評価方法では困難だった「異なる問題での結果」の比較を可能にする調査理論
- ②人権尊重教育研究推進校・実践推進校の研究支援及び教職員やPTAを対象とした研修の実施については、内容の充実を図りながら、引き続き実施してまいります。また、人権教育補助教材や子どもの権利学習資料等の活用について、GIGA端末の積極的活用等、内容や手法の改善を図りながら検討してまいります。
- ③川崎らしい特色ある「健康給食」の推進については、児童生徒の健全な身体の発達に資するため、継続して「健康給食」を推進してまいります。
- ④かわさきGIGAスクール構想ステップ3の実現に向けて、引き続き推進協力校及び研究推進校に対して、文部科学省のリーディングDXスクール事業を活用しながら支援を行い、その先進的な実践を他の学校に研修等で共有することで、教員の授業力を向上させ、児童生徒の端末に対する有用感を高めていきます。また、スタディ・ログなどの**教育データの利活用について、エビデンスに基づいた教員による児童生徒の指導やそれに向けた教員への支援を行い**、さらに児童生徒が自身の学び等を振り返りながら進められるよう環境を整備します。情報モラル教育の充実については、これまでの取組に加えて、各教科等の授業の中で情報モラルが育成されるように教職員へ伝達し、取組を推進します。
- ⑤「川崎市立高等学校教育改革推進計画第2次計画」に基づく取組について、関係機関等と連携を図り、インターンシップの実施や探究的な学習の充実に向けた体制を引き続き整えていくなど、新たな社会情勢や生徒、保護者、市民の幅広いニーズに合わせた高等学校づくりに関する検討を進めます。

参考指標								
指標名	指標の説明		実績値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	目標値(R7年度)
授業の理解度	「授業がわかる、どちらかといえばわかる」と回答した児童生徒の割合 【出典：川崎市学習状況調査】 小5：国語、算数、理科、社会の平均 中2：国語、数学、理科、社会、英語の平均	小5	90.1% (R3(2021)年度)	89.3%	84.6%	—	—	94.0% 以上
		中2	79.6% (R3(2021)年度)	79.0%	66.8%	—	—	82.0% 以上
授業の好感度	「学習は好き、どちらかといえば好きだ」と回答した児童生徒の割合 【出典：川崎市学習状況調査】 小5：国語、算数、理科、社会、総合の平均 中2：国語、数学、理科、社会、英語の平均	小5	75.4% (R3(2021)年度)	73.4%	70.1%	—	—	81.0% 以上
		中2	64.8% (R3(2021)年度)	61.8%	59.5%	—	—	67.0% 以上
授業の有用度	「授業で学んだことが、生活の中で役に立っていると思う、どちらかといえば思う」と回答した児童生徒の割合(～令和4年度) 「授業で学んだことは、将来、社会に出たときに、役に立つ、どちらかといえば役に立つ」と回答した児童生徒の割合(令和5年度～) 【出典：川崎市学習状況調査】	小5	92.4% (R3(2021)年度)	91.7%	90.9%	—	—	97.0% 以上
		中2	81.0% (R3(2021)年度)	79.8%	82.0%	—	—	85.0% 以上
英語によるコミュニケーションへの積極性	「道で外国人に英語で話しかけられたとき、何とか英語で話そうとする」と回答した生徒の割合 【出典：川崎市学習状況調査】	中2	81.8% (R3(2021)年度)	84.5%	80.2%	—	—	85.0% 以上
規範意識	「人が困っているときは、進んで助けている、どちらかといえば助けている」と回答した児童生徒の割合 【出典：全国学力・学習状況調査】	小6	90.5% (R3(2021)年度)	91.5%	93.5%	—	—	91.0% 以上
		中3	90.4% (R3(2021)年度)	89.7%	90.5%	—	—	91.0% 以上
子どもの体力の状況	体力テストの結果(神奈川県の実績値(体力合計点)を100とした際の本市の割合) 【出典：全国体力・運動能力、運動習慣等調査】	小5(男)	99.9% (R3(2021)年度)	100.37%	100.89%	—	—	102% 以上
		小5(女)	99.8% (R3(2021)年度)	99.98%	100.00%	—	—	102% 以上
		中2(男)	94.5% (R3(2021)年度)	95.76%	96.12%	—	—	100% 以上
		中2(女)	96.3% (R3(2021)年度)	97.01%	98.15%	—	—	100% 以上
学校給食の残食率(小学校)	残食率の高さや栄養の観点から重点5項目とする品目の残食率 【出典：川崎市教育委員会調べ】 小学校(白米、変わり飯、卵類、豆製品、藻類)	白米	6.1% (R2(2020)年度)	5.28%	6.02%	—	—	5.46% 以下
		変わり飯	7.0% (R2(2020)年度)	5.37%	8.29%	—	—	5.41% 以下
		卵類	7.3% (R2(2020)年度)	6.66%	5.76%	—	—	4.50% 以下
		豆製品	7.0% (R2(2020)年度)	6.43%	7.63%	—	—	4.95% 以下
		藻類	7.6% (R2(2020)年度)	6.16%	6.38%	—	—	5.04% 以下
学校給食の残食率(中学校)	残食率の高さや栄養の観点から重点5項目とする品目の残食率 【出典：川崎市教育委員会調べ】 中学校(白米、変わり飯、豆類、野菜類、藻類)	白米	21.2% (R2(2020)年度)	18.68%	16.93%	—	—	12.3% 以上
		変わり飯	13.3% (R2(2020)年度)	12.40%	14.52%	—	—	9.24% 以上
		豆類	15.1% (R2(2020)年度)	15.44%	13.93%	—	—	11.29% 以上
		野菜類	15.9% (R2(2020)年度)	14.03%	12.92%	—	—	10.05% 以上
		藻類	17.2% (R2(2020)年度)	16.45%	14.74%	—	—	11.08% 以上